大阪損保革新懇ニュース

大阪損保革新懇事務局
大阪市中央区道修町3-3-10
日宝道修町ビル３Ｆ
０６－６２３２－１０９５

『水俣』『福島原発事故』
ーそして関西の私たちがとれるアクション

３月５日、2020年最初の講演会を開催し45名が参加しました。志賀守孝事務局長の司会で始まり、張間恵樹代表世話人が開会挨拶。NPO「グリーン・アクション」代表、アイリーン・美緒子・スミスさんが、水俣病と福島原発事故に共通する問題と今後のたたかいについて講演しました。70年代、アイリーンさんとともに水俣病を取材し世界に発信した写真家、ユージン・スミスさんをジョニー・デップさんが演じた映画「MINAMATA」は、２月のベルリン国際映画祭で初上映されました。水俣病訴訟は今も続いています。アイリーンさんは、若狭湾には原発が密集している、この関西で私たちにできることから行動を起こしていこうと熱く呼びかけました。

アイリーン・美緒子・スミスさん

〔講演要旨〕

「水俣」との出会い～映画「MINAMATA」

皆様ありがとうございます。数名と思ってたお部屋にたくさんいらっしゃっててすごく感激しました。今報道ステーションの話があったんですけど、レッドカーペットをさーっと歩いているうちにジョニー・デップと合流して、なんか一緒の写真になってしまいました。

映画「MINAMATA」製作ではハリウッドとのバトルもありましたが、日本の俳優さん、真田広之さん、國村隼さんたちはすごく頑張りました。

水俣との出会いなんですけども、ちょうど今年の秋で50年になるんですね。1970年の秋にユージン・スミスと出会いました。彼は14歳から写真を撮っていて、私が出会った時はもう50歳でした。彼の写真展を東京・新宿のデパートでやらないかという話があって、その時に私たちは「水俣」という名前を初めて聞きました。そして公害で人が病気になる、死ぬというのを初めて知りました。1971年の９月、結婚し、籍を入れた５日後ぐらいに水俣入りしました。初めは３か月くらいの予定が３年間居たんです。

この３年間は私たちにとってはものすごく貴重な時間でした。私、満21歳から24歳の時期だったので、患者さんとの出会い、支援者との出会い、その時に見たこと経験したことがもう本当に私の人生の土台になっています。私たちが飛び込んだときは、もう本当に患者さんの長い苦しみが続いていました。

水俣はチッソの城下町で、肥料とかプラスチックの原料とか作ってたわけですが、大半の人がチッソやその関係のところで働いていました。そのチッソが水俣湾にどんどん毒を流してたんですね。そのなかの水銀が魚に入り、それが動物、猫、鳥、豚、犬、そして人間をみな病気にしました。

チッソとのたたかいの教訓

チッソは、1959年に「見舞金契約」というのを結ばせるんです。わが社が水俣病の原因かどうか分らないけど、かわいそうだからうちはお金をあげるみたいな。で、これを今受け取らなかったら二度と受け取れないなんて脅して、本当にわずかな金額で泣き寝入りさせようとしました。だから、とても勝てるはずがない裁判をやってきたんです。勝てるはずもないというのは、この見舞金契約に二度と訴えを起こさないということが活字で書いてあったからです。

だから、チッソがすべての原因だということ証明しなければいけなかった。そこで新潟の患者さんが立ち上がった。水俣の患者さんも立ち上がった。多くの支援者が集まった。チッソで働いてる労働者も証言した。

映画「MINAMATA」2020年秋・公開

熊本県水俣市で発見された工業廃水が原因の公害病「水俣病」の実態を追うアメリカ人フォトジャーナリストとその妻を描いた物語。
主演：ジョニー・デップ（製作も兼任）
出演：美波、真田広之、浅野忠信、加瀬亮、國村隼
ベルリン国際映画祭(2/20～3/1)上映

お医者さんも弁護士も頑張った。みんなが自分のできることをやったんですね。

1973年の３月20日が熊本地裁の判決の日でした。判決は本当に素晴らしい内容です。法律さえ守っていればいいんだ、というのではなくて、化学工場というのは常に地域の住民に被害を与えてはいけないと。万が一その疑念が起こったら即刻操業停止しなきゃいけないと。これは福島で排水を流そうとしているときとか、今でもどこにでも使えます。47年前に確定していたものを守らないというのはなんだと。それを私は、23になる前の時に体験できたわけです。こんなパワーをもらったというか、見られたというか。だから、今原発で裁判あって何回負けても、自分の中の信念というか中にある火というのは絶対に消えないですね。

日本の住民運動はすごい

次に原発反対の運動のことです。1979年の３月にスリーマイル島での原発の事故が起こり、そこで１年ぐらい暮らして、多くの人の話を聞きました。その時、皆さんが口をそろえて言ったのは、「日本は地震国だから、まさか原発はないでしょう」と。いや、住んでいる京都の北の福井に原発が何基もあると言うと、「そんな危ない所に戻るな。このままここに残りなさい」と皆さんが言うんですね。

そこで、自分がどういう所に住んでいるかを改めて意識するようになりました。その後、日本に帰ってきてから、スリーマイル島事故の話を聞きたいと言われ、北海道から九州まで、ものすごく多くの所から呼ばれ、話をしました。ある意味、全国反原発ツアーになったんです。

日本中、多くの人たちが反原発で頑張っているんですね。このみんなの頑張りが無ければ、３・11が起こった時、日本の原発依存度はたぶんフランスの７割のように、高い水準になっていたと思います。福島原発事故後、日本の原発は全部止めざるを得なくなりました。電力の７割８割を止めるのと、３割で済むのとでは、生活や経済への影響が全く異なります。

反原発運動・住民運動が日本の経済を救ったともいえます。ヨーロッパなどと比べて、日本の住民運動は見えないとか弱いとか言われます。でも、日本の住民運動はすごいんです。水俣病・四日市ぜんそく・新潟水俣病・イタイイタイ病の四大公害病でもどこかの誰かが頑張ったから止めることができたんです。過去の公害被害を告発する何十年前の白黒写真を若い人が見て、この人たちと自分の細胞はつながっているのだ、自分の幸福の部分とこの人たちはつながっているのだという事に気づいてほしいと思っています。

関西で私たちのアクションを

若狭は世界でも類のない、原発の集中・密集地帯です。その若狭に一番近いのが関西です。世界地図で過去地震があった地域を表示すると、日本は黒い点で覆いつくされます。その上に原発を赤い点で表示すると、重なって表示されます。世界中見ても、こんなに重なって表示される所は他にはありません。そのど真ん中に私たちはいます。原発事故以降２年間原発が止まり、その後、新規制基準ができて再稼働が始まり、今、８基が動いています。その８基を増やさないたたかいです。老朽化したといわれる原発で、整備して稼働させようと工事しているのは福井だけです。福島では、放射能の７割が海に、３割が陸地に流れました。しかし福井で事故が起これば、大半は関西に流れ込むと言われています。

水俣も正念場の裁判が続いています。当時３歳や４歳だった人が今でも裁判をしています。国やチッソは「魚が危険だったという事は知っていたはずだ、いつ、どれだけ食べたか証拠を出せ」と言っています。60年後の裁判で、当時、３歳や４歳だった人にです。その裁判の応援もお願いしたいと思っています。今月16日に原発の裁判も開かれる予定です。その傍聴もお願できればと思っています。

ユージン・スミスと二人で出した水俣の写真集、英語版が1975年に出て、日本語版が1980年に出ました。今回の映画は私たちの体験に基づくとなっていますので、当時の患者さんを描いた復刻版を、できればこの秋の映画上映にあわせて出したいと考えています。　　＜文責：事務局＞